

■特別支援教育講座

「竹田契一先生 講演」 特集号 PART 2)

10月6日(土)に開催した講演の中から一子どもを理解するとは一

■発達障がいをもつ子の特性(どれも当てはまるというわけではない)

- 心の理論の欠如
 - ・ 他人の視点に立つことが苦手である。
 - ・ 言葉を字義通りに解釈してしまう。
 - ・ 場面理解が弱い。
 - ・ 文脈の情報に合わせて意味を読み取ることが苦手である。
- 聴く力の欠如
 - ・ 聴覚的フィードバックに障がいがあるため、自分の声が大きすぎたり、小さすぎたりする。
 - ・ 聞き間違いが多い。
 - ・ 聞き取るのに、通常の2～3倍の時間をかけて理解する。
- 見る力の欠如
 - ・ 人の顔を見分けることが苦手である。
 - ・ 動くのものが分かりづらい。
 - ・ 何枚かの写真から特定の顔を選ぶことが苦手である。
 - ・ 表情から相手の気持ちを読み取ることが苦手である。
- 思考の柔軟性の欠如
 - ・ 物事を白か黒かはっきりしないとどうしても気が済まない。
 - ・ 頭ごなしに「間違っている」「謝りなさい」などのことばを言っても、不快体験を増すだけである。
 - ・ 本人は何を叱られているか理解できていないことが多い。本人の理解の仕方を把握する必要がある
 - ・ 一度インプットされるとそれを変えられないため、急な変更やハプニングに弱い。前もって決めていたことを変えるときは、早めに説明しておく。
 - ・ 叱られると「しまった」と思い反省するが、次の瞬間にはすぐ忘れてしまう。
 - ・ 決して先生の注意を聞いていないのではなく、自己コントロール力の弱さのため考えるより、先に行動してしまう。

■発達障がいをもつ子への対応の基本

- ・ 不快体験の繰り返しはパニックにつながる。
- ・ いつも一貫性のある関わりをする。
- ・ ソーシャルスキルトレーニング的仕法(下記)を活用する。

- ① ことばによる教示
 - ② モデリング
 - ③ リハーサル
 - ④ フィードバック
 - ⑤ 汎化

